

福島県いわき市を訪問し、 福島第一原発 20km 圏近くの放射能を測定しました

狛江の放射能を測る会

「狛江の放射能を測る会」は福島原発の重大事故を受けて、脱原発を課題に今年 2 月末に結成し、狛江市内 30 数カ所での月 1 回の継続的な放射能測定を行い、また原発とその廃止に関連する勉強会などの活動をはじめました。今回は、福島県いわき市を訪問し、また福島第一原発 20km 圏近くを通る国道(399 号線)沿いの放射能測定をしてきました。現在の福島県民のかかえている状況を肌で感じましたので、それを皆様にお知らせいたします。

4 月 2 日、いわき市にて元気象庁の島田さんと原発問題住民運動全国連絡センターの伊東さん（会のメンバーで狛江在住の気象学者でもある増田善信さんの紹介）にお会いして、現在のいわき市小名浜港の現状、原発事故の問題と復旧への困難な状況等を聴き、また小名浜・塩谷崎・薄磯と豊間中学（被災・瓦礫一時集積場）など津波被害の現状を視てきました。その後 6 号線を 20km 検問所・J ビレッジまで北上し放射能の測定を行いました。伊東さんに用意していただいた資料によると、原発事故後、いわき合同庁舎前で 13 日から県による測定が始まり、15 日・16 日そして 21 日と 3 度の放射能のピークを記録していたが、直後から測定記録があるかどうか問い合わせたにもかかわらず、その発表は 5 月になってからであったことや、県内で原発廃炉の決議を出した自治体は、59 自治体中 37 自治体であったが、原発立地点近くの大熊・双葉・富岡などの決議が採れていないこと、過去に原発反対運動が潰され、運動の核がない状態であることなど、率直な話を聴きました。

第 2 日目は小名浜地区で「住民のまちづくり」の NPO ザ・ピープル（約 50 名）理事長の吉田さんから活動状況と約 3 万人の複雑な被災者支援の話をして伺いました。楢葉町と双葉町の仮設住宅を見学、そして市民放射能測定室“たらちね”に案内して頂きました。この測定室には WBC（ホールボディーカウンター）が 1 台、食品放射能測定器が 4 台あり、市民の検査依頼に応じています。また、市内全域の空間線量測定を依頼に応じて測った記録が沢山ありました。

午後は 399 号線を阿武隈山中に分け入って放射能汚染の測定をしました。いわき平から 399 号線に入り、峠越えをしながら 20 km 圏のギリギリ外側の川内、都路、そして 288 号線を三春方面へと、猛烈な嵐の中を走行して福島市に行きまし



豊間中学の体育館にあった時計：
津波到着の時間（3：28）を示して止まっている。



豊間中学のプールに入れられた瓦礫の山。放射能に汚染されている。この瓦礫の山は運動場に続いていました。

た。

夜は、福島市の飯坂温泉に宿をとり、増田さんが連絡してくれていた渡邊福島大学副学長から福島大学での除染をはじめ、科学者の社会的責任や、責任者としての本当に大変なこの 1 年のお話を聴くことができました。渡邊先生との 2 時間半の時間はあっという間に過ぎました。

第 3 日目は、朝 9 時頃になると風はまだあり、雪も少し降っていましたが、399 号線を南下して飯館村などの高放射能汚染地区の測定に向かいました。399 号線は伊達市中心を過ぎ、霊山町に入る頃から里山風景になり、飯館村に入ると線

量の桁が上がり始め、峠の展望台では $9\mu\text{Sv/h}$ になりました。飯舘村から浪江町に入るとさらに高くなり、 $9.8\mu\text{Sv/h}$ を超え、そして測定器はついにスケールオーバー ($10\mu\text{Sv/h}$ 以上) しました。葛尾村に入ると線量は下がりました。引き続き 399 号線を南下し、都路で 288 号線を三春方面に抜け、磐越-常磐自動車道を使って東京に戻りました。

2 日間で 399 号線の、原発事故 1 年後の空間線量測定を行ったことになります。3 日間の 4 人による行動ですが、放射能汚染による被災や津波の被災を自分の目で見ることによって実感できたことは大変に貴重な経験でした。さらに、いわき市を拠点に活動されている方々や福島大学での困難な活動を聴くことができ、充実した 3 日間でした。

(文責 須貝)

福島・美しき自然の地への 3 日間の旅

二階堂まり

4 月 2 日～4 日、狛江の放射能を測る会のメンバー 4 人で測定器 3 台を持っていわき市、福島市飯坂を起点に 399 号線を福島第一原発 20km 圏近くまで放射能測定に行ってきた。福島は 2 月 (川内村まで)、3 月 (3.11 福島県民大集会) に続いて 3 回目だが、今回は復興の中心になっている方たちに案内していただけたので、何とも「濃〜い」3 日間となり、五感すべてが働き、心も体もいっぱい一杯の毎日だった。いわき市ではチェルノブイリにもいらした原発問題住民運動全国連絡センター代表で浜通り医療生協理事長、元小名浜測候所の方、いわき市小名浜地区復興支援ボランティアセンター長、飯坂では福島大学の副学長で気象の専門家であり事故直後に放射能の流れを調べた方などが、案内やお話をしてくださった。いわきから飯坂までは 399 号線を北上していわき小川町、川内村、田村市古道・常葉町、三春町を通過して磐越自動車道から東北自動車道で行き、帰りは 399 号線を南下して伊達市月舘、川俣町をかすり、飯舘村白石・長泥、そして浪江町赤字木・津島、葛尾村を走りつつ線量を測り続けた。夢のように美しい村、日本人の心のふるさとならう長閑な里山。動物と人間が、自然が、共存していたひたすら美しい地。飯舘村の南部から浪江町赤字木ではついに測定器の針が振り切れてしまった。 $10\mu\text{Sv/h}$ 以上・・・狛江市の約 130～140 倍だ。あまりに美しい景色に涙が止まらない。何故？ どうして？ 自然と共に、自然農を営み、独自の村作りをしてきた方たちが何故それを捨てなければならないのか？ 何も解決せず、何も明らかにさえなっていないのに「再稼動」などとどうして口にできるのだろうか？ 車の外に出ても、ただ、美しかった・・・何もしなかったか



飯舘村 峠の展望台前
地面 5 cm での線量がついに $9.999\mu\text{Sv/h}$ を超えた。後に、地上 1 m の地点でもスケールオーバーした。



誰も住んでいない里山の家(飯舘)

のように。色も臭いも、味も、熱も、何もないのだから、放射能は。線量計を見なければ何世代にも亘って村人が暮らしを営んできた村のままのようだった。最近では、帰村の話題が取り上げられる。6 日の夕刊には川内村の始業式の写真があった。本当に村の人に寄り添って考えられているのだろうか、不安が募る (特に川内村というわけではなく)。



楡葉町の原発 20 km 検問所

福島第一原発の 20 キロ圏検問所まで行った。そこ、楡葉町の南端にある「J ビレッジ」は、東電が 130 億円かけて「お礼に」作ったサッカー場だ。今は原発に群がる大企業の前線基地になっている。そのすぐ南は広野町で常磐線は広野駅まで開通している。広野町は 9 月に帰村宣言したが $0.65 \mu\text{Sv/h}$ で(粕江は 0.07 位)、500 人の内 250 人しか戻っていない、昼だけ戻ってくる人はもう少しいるがと聞いてきた。しかし、駅前にいた若いタクシーの運転ちゃんたち 3 人と話をしていたら、それどころではない話を聞かせてくれた。

「250 人？昼だけだよ。夜は誰もいないね。だって、店が一軒しかないのに住めないよ。町長だって勿来(なこそ)から通ってきている。職員もいわき市などの仮設から通っているんだよ、役場に。それで戻れなかったって戻れないよ。生活できない。仕事もないし。お年寄りも帰りたいって。だって、農業ができないからやることない。常磐線は東電から圧力があって開通したんだ。(なるほど！1 日 9 本の内、朝の 2 本を除いていわき駅



広野駅は現在常磐線の最北駅。ここには毎日 9 本の電車が来る。ほとんどが原発で働く労働者のため。タクシー運転手に状況を聞く。

始発) 避難解除だって東電のためだ。三菱重工がアパートを借り上げてるよ。除染？かつこね(格好だけね)。9 月に戻ったけど、二ヵ月後にやったよ。だけど水撒くだけね。除染も東電のためだよ。(測ると $0.36 \mu\text{Sv/h}$ あったので「線量高いよ。大丈夫？」と言うと) 今ごろ言われても、ずっといるんだから・・・。」元々は、広野町といわき市の四倉は「自宅退避」だったが、町が避難しろと言って、全体で避難したのだそうだ。

原発廃炉決議は、59 市町村の内 37 市町村が行っている。しかし、肝心の被曝の中心地域では、浪江・飯舘・南相馬しか決議していない。住民の声をまとめる共産党などの組織が、原発誘致の流れの中で完全に潰されてしまったのが大きいという。第二原発を誘致する頃から、いわき市でも誘致の「市民運動」として住民がうまくまとめられ、反対派の「住民運動」と対立させられたそう。各戸を回り、ポスティングし、議員は先頭に立ち、マスコミはそれを応援した。

同じ反原発なのに、共産党と社会党などが対立して分裂してしまった楡葉町のようなところもあると。1973 年に共産党が始めての公聴会を開くことに成功したのに、社会党などが「ごまかしの公聴会粉砕！」となり分裂。結局は向こうの思う壺・・・。そ～なんだよね、都知事選でも、なんで団結して権力に立ち向かわないの？！というも思う・・・。

浪江町は、東北電力が原発を作ろうとしたが、絶対土地を売らないという人が出て、実質断念したのだそうだ。

○ いわき市の特異な状況

いわき市は香川県の 4 分の 3 ほどもある大きな都市(昭和の合併)で人口は 34 万人だった。原発の事故で約 30,000 人が避難してきているようだ。正式発表は約 22,000 人だが、親戚を頼ってきている人たちも入れると 3 万人くらいになると思われる。流出している人は約 7000 人。いわき市は 3.11 の地震自体の被害はほとんどなく、一ヵ月後の直下型地震の方が大変だった。しかし、それも場所によって違い、「もう終わった」感じの人も多い。本当の被災者は局所的なので、市民に一体感がない。小名浜港は沿岸近くも深いので船は 70% が沖に逃げられ、助かった。遠浅のところは逆に 70% がやられている。しかし、沿岸 160 キロ、1 年間漁業が禁止され、その後の今も

毎日テスト漁をしているが復興できない。

いわき市に最大の放射性プルーム（雲）が通過したのが15日午前4時で、 $23.72\mu\text{Sv/h}$ あったそうだ！これが通学時だったらと思うとゾッとする（もちろんその後も10日間くらいは影響があったわけだが）。この数値は県の合同庁舎前の測定で、発表されたのは5月だった。しかも「あるでしょ！？」と聞いたときには「ない」と言われていたものだ。県は知っていたのに右往左往してださなかったのだ。スリーマイル・チェルノブイリの一番教訓は「情報をすぐに出す！」だったのに。今度こそ全ての自治体が学んでほしい。



小名浜地区交流センター

小名浜地区復興支援ボランティアセンター長の吉田さんは「the People」というNPOの代表でもある。彼女からいわき市の特殊な事情を伺うことができた。現在「小名浜地区交流サロン」（ショッピングセンターの一角にスペース。誰でも来られる場所）を作りいわき市民と避難してきた住民との交流をはかっているそうだ。ここは、色々な立ち位置の人が集まって人間関係を築いていける場所、買い物ついでにちょっと寄って御茶を飲み、本を読み、遊ぶ場所にしたいと言っていた。

将来、いわき市はエネルギー転換の地としても中心となっていきたい。地産地消を市民レベルで行い、人を呼び込める街にしたい。流出人口を引き戻すためには今までの「美味しい魚」だけではだめ。エネルギーの地産地消をしたい。これでいわき市に人を取り戻したい。また、福島県全体としてどうしていくのか、村ごと移動させるのかなど県としてしっかり考えてやっていくしかない。

○ たらちね・いわき放射能市民測定室

DAYS JAPAN の2月号でも紹介された 市民による放射能測定室を訪れた。11月13日に開

所、現在食品の測定器4台、WBC（ホールボディカウンター）1台を使って市民が持ってきた食べ物・土壌、そして身体を測っている。食品は一点500円で30分くらいで測れる。水は3時間。WBCは1回3分で終わるが、大人5000円、こども1000円、二回目から半額。食品は今までに約1200件、WBCは1800人程。最近では土壌を持ってくる人が増えたので測ることを始めた。土の上部がどのくらいかを測りたいのに、取る前に農協がかき回して低くしてしまっている。土は600ベクレルだが、苔は6000になる。つまり苔は表土で生育するので放射能を一杯吸ってくれる。だからそれを取り除けばよいのだ。以前は土のセシウムを測るのは5cmまでの深さで良かったが、今は15cmまで掘って測らねばならない。衣服を着ていて高く出るということは、環境に放射能があるということだ。「このあたりは除染されていないのですか？」 $0.5\mu\text{Sv/h}$ 位のところはたくさんあるから、基準より上だからって除染申請しても、優先順位があるので、順番が来るころには下がってますよ。（その間にみんなが一杯吸入してるわけだ）そして、二年たって「終わりました！」って言われても、結局は何もやってないってことです。測るのが怖いから測っちゃ困るという人もいるし、ここに測りに来るだけじゃなく、来て、相談する人もたくさんいる。家族との葛藤とか。私たちは医者じゃないのだけれど、どうしたらよいでしょう？と解答を求められる。心の健康を害されている人がたくさんいる。子どもに料理を作ってあげられなくなって、レトルトを食べさせる母親・・・食べるストレスと食べないストレスのバランスが大切だ。ゼロを求めるのではなく、基準をはっきり決めて食べる選択をするのがよいと思う。WBCも食品測定器も回りにべ



いわき放射能市民測定室「たらちね」のWBC(ホールボディカウンター)

ットボトルの壁を張り巡らせて鉛の代わりに水で周りのノイズを除いていた。椅子は背もたれのちょうどお腹辺りに測定器が付いているようで、セシウムは筋肉質のところに集まるといふことだそう。

○ 福島大学での不休の活動

3日の夜は、嵐の中、宿まで気象の専門家の渡邊さんが来てくださり、とても興味深いお話を聴くことができた。非常にショッキングなお話も多かった・・・9月に子どもたちの被曝度を調べたが、ここにも大きな「格差」があることがわかった。住居によって被曝度に差が出たのだ。立派なマンションの住人～バラックに住む人で、きれいに三段階に分かれたそう。大学でも教授は逃げて他の職場に行くことができて、職員はそうはいかない・・・彼は事故直後から放射能の流れを調べ、福島市や飯舘村が汚染されたことを発表した。日本気象学会の会長に「人心を惑わすことを言うな！」と言われたわけだ。結局、飯舘のように情報が二転三転したり、浪江赤宇木などは当初物凄い線量(1500 μ Sv/h!)だと測られていたのに公表しないのでそこに次の人が入って被ばくしてしまった。県の壊れた測定器は12日夜にはすでに復旧していた。原子力安全委員会は「事実が分からないから言わなかった」と言っているが、「高い」とか「低い」とだけでもいいから言うべきだったのだ! 15日発表の郡山は、始めは「低かった」が実は建物の三階の窓から測定器を出して測っていたのだそう。空間線量だからいいと思っていたという・・・そして原子力安全委員会がいいと言ったのだそう。町長や村長

は計画的に避難させようとしたが、11日19時には空焚きのことを、地元の原発労働者1万人は分かっている、家族に「逃げろー!」と電話していた。除染については世界の会社(特にウクライナやロシア)から装置のサンプルがくるそう。争奪戦? 福島大学では12月から実験を始めた超高水圧(250MPa)&ゼオライトを使う方法が良いようだ。水をすごい勢いで撒き、放射能を削って吸い込み、それをぐるぐるとふるいにかけてゼオライトが99%を吸入するそう。それを土に深く埋めて土を被せる。6月から実用化になるらしい。埋めておいて、分解させる科学を早く発展させてほしいと。

色々辛い経験の中で、心に残る体験もしたと話してくれたのは、福島大学でも被災した学生がたくさんいるが、この春卒業した女子学生は津波で父母を亡くし、生きていれば振袖姿で卒業したはずだったのだが、ジャージで卒業するまで、ず～～と大学に避難してきた人たちの面倒を見続けてきて、「それができて本当によかった!!」と言っていたとのこと。

また、大学で避難生活を送り今年孫が福島大に入ったおじいちゃんが「孫より一足先に大学に入ったんだよ。本当によくしてもらった」と余裕などない中から十数万円を出して植樹をしてくれた。学生たちはボランティアをすることで確実に色々なことを学んでいるという話だった。

除染については、下記を参照してください。

<http://www.jaea.go.jp/fukushima/decon04/ke05.pdf>
17 頁



飯舘村の風景 この大地が汚染された



現在のいわき市豊間海岸近傍 津波被害跡

福島県国道 399 号線に沿った放射能汚染地図

測定 2012 年 4 月 2 日～4 日 狛江の放射能を測る会

6月9日
訂正版

1年間の推定積算線量

単位はシーベルト。
平成24年3月11日までの
およそ1年間の推定積算線量。
(測定開始日は地域により異なる)
文科省資料より作製。



福島県 浜・中通り
原発80km圏内図

新聞、ネット等に公表された放射線量地図等を
拡大して本図の下に載せてご使用下さい。

伊達市 (399 x 349) = 0.585

伊達市 (399 x 315) = 0.862

伊達市-飯舘村境 = 1.395

飯舘村二枚橋 = 1.390

飯舘村臼石小学校近く = 1.730

飯舘村飯桶小近く = 3.335

飯舘村峠の展望台 = 8.876

飯舘村-浪江町境 = 8.678

399 号線 津島へ行く途中 = 9.820

浪江町に入って 1 km = 10μSv/h 以上

浪江町・葛尾村境 = 1.216

葛尾村役場前 = 0.994

葛尾村掛札峠(雪) = 1.162

399 X 288 合流地点 = 0.604

川内村役場前 = 0.119

399 X 36 交差点 = 0.305

川内村(手古岡トンネル前) = 0.559

川内村入口手前 = 0.864

飯坂温泉 = 0.255

保原 = 0.248

霊山 = 0.547

パーシモン CC 手前 = 0.746

J ビレッジ = 0.324

広野駅 = 0.291

いわき市小川町上小川内倉 = 0.222

いわき市小川町上小川横川 = 0.156

いわき市小川町福岡飯森 = 0.132

塩谷峠 = 0.486

小名浜タウンモールリスポ = 0.099

小名浜港 = 0.047

単位: $\mu\text{Sv/h}$ (1 時間当たりの放射線量マイクロシーベルト)
測定器: PA1000(堀場製)

<http://maps.google.co.jp/maps/ms?msid=217824378865472811063.0004bcf203a9b614cef65&msa=0>
(より鮮明な地図を見ることができます。)